

松神集落「集落営農ビジョン」
(人材確保型支援 ・ 規模拡大・発展型支援)

※該当する支援メニューに○を記入

作成日：令和 6 年 3 月 2 9 日

修正日： 年 月 日

市町村名	北栄町	組織名	松神水田生産組合
1 地区の範囲 東伯郡北栄町 松神地区			
2 地区の概要			
水田面積 31.12ha	主な水田栽培作物 水稲・大麦	農家数 89戸	
認定農業者数 2経営体	人・農地プランの中心となる経営体数		4経営体
3 組織の概要			
設立時期（規約等の制定日） 平成12年11月22日	経営面積 24.64ha	構成農家数 88戸	
組織形態（該当形態に○を記入） ・ 共同利用型 ・ 作業受託型 ・ 協業経営型			
役員の数・年齢 13人（平均年齢60歳）			
オペレーターの数・年齢 8人（平均年齢65歳）			
その他集落営農活動に参加している人数・年齢 30人（平均年齢68歳）			
4 集落営農に対する基本方針			
【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】			
<p>(1) 担い手の明確化及び水田利用集積目標 ※考え方（担い手をどう育成し確保していくか。農地賃借、機械の共同利用、作業受委託、生産の組織化などについて。）</p> <p>当組合は、平成11年度ごろの大区画圃場整備事業施工にあたり、平成12年11月22日に集落営農組織を立ち上げました。</p> <p>当地区では、作業の核となるオペレーターや役員が多くがラッキョウや長芋等で営農をしている個人農家であり、さらには役員でも会社勤めの方が多いです。このため、水稲・大麦の作業は、営農品目の繁忙期にかぶらない時期、かつ会社勤めの方が休みの土日を中心に、一気に作業を行う必要があります。</p> <p>農地について、過去の経緯から他集落の方が耕作しているほ場もあります。しかし、米価下落や物価高騰、高齢化の影響により、これらの方々が耕作をやめ、松神集落に営農を急に求められることが増えてきています。</p> <p>このような状況であるので、松神地区の水田を守っていくため、持続可能な水田農業を維持するために、以下の方針を立てました。</p> <p>①コンバインなどの農業機械を増やし、適期作業かつ短時間での作業が可能な体制を整える、②①の体制により、個人農家や会社勤めの役員等が参加しやすい体制とする、③作業時間をむやみに増やさないことで労賃を適正範囲にし、組合の経営を安定化させる。</p>			

(2) 水田の作付計画（水稲以外の作物を含む）、活用方針・具体策

※考え方（今後伸ばしていく作物は何か。団地化・ブロックローテーション。作物の品質向上。）

当組合では、現在は水稲・二条大麦の作付を行っています。作付計画は、役員が配当を最大化できるよう計画しています。

水稲の作付品種は、早生品種のコシヒカリ、中生品種の飼料用米として日本晴です。これはオペレーターである個人農家の繁忙期にかぶらないよう長年検討し続けた結果です。

コシヒカリについては、夏の高温の影響により、一等米比率が低下してきている現状があります。これは、人手不足による観察不足から追肥適期を逃したこと、コンバインが老朽化し適期刈取ができていないことに起因しています。

このため、今後の対策として、水稲作付期間中を通じて労力不足を解消できる体制とし、ほ場観察にかける時間を捻出し、基肥一発肥料栽培での穂肥追肥を行い、一等米比率向上と単収向上を図ります。

これらの管理方法を実現させるため、JA 営農指導員や農業改良普及所の指導を仰ぎ、所得の増加を目指します。

(3) 農業用機械施設の効率利用

※考え方（省力・低コスト化に向け、機械・施設をどのように有効利用していくか。今後整備が必要なもの、JAが整備している施設をどのようにするか。）

当組合で所有する機械は、トラクター2台、田植機6条2台、コンバイン4条刈り2台等があります。

効率化・省力化に向けた現状の課題として、水稲収穫作業の改善が必要になります。

水稲収穫では、組合で現在所有するコンバインが耐用年数の経過に伴い修理に多くの時間を取られており、適期作業の妨げになっています。

これを改善するために、本事業でコンバイン（72ps、4条刈り）を新規導入し、3台での収穫体制を構築します。これにより、短期間かつ適期での収穫作業を実現するとともに、コンバイン1台あたりの負担を軽減させることで、3台とも長期間にわたって使用できるようにします。

(4) 人材の確保、後継者育成に関する方針

※考え方（新たな人材をどのように確保し、どのような方法で育成していくか。）

現在、オペレーターは70歳代5人、60歳代1名、40歳代2名です。

前述のように農作業の省力化・効率化を行うことにより、オペレーターの負担を少なくする体制を整え、新たなオペレーターを確保しやすい体制を整えます。

人材育成の方法として、現在当組合では、オペレーター候補の大型特殊免許の取得代金を全額補助しています。また、ベテランのオペレーターから親切丁寧に教える取り組みもしています。

今後は役員やオペレーターへの研修が必要と考えます。農作業安全講習の実施、水稲の栽培管理や病害虫管理についてJA 営農指導員や農業改良普及所から研修受講することにより、農機や水稲生産にかかる知識を基礎から学べるような体制を整え、初心者でも意味を理解して作業に望める体制を整え、次世代の人材育成につなげます。

(5) 経営多角化の方針・具体策

※考え方（どのような手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取り組みなどについて。）

本組合の人材は前述のとおり多忙となっています。このため、本事業で導入するコンバインなどを十分に活用することで、水稲・大麦の生産に集中して、利益の最大化に努めます。

【人材確保型支援は記入必須】

5 人材確保のための取組方針

【項目】		【実施年度】		
		○年度	○年度	○年度
人材育成研修	実務研修			
	免許取得			
	その他			
集落営農活動への参画				

【人材確保型支援（うち畦畔管理省力化支援）は記入必須】

6 畦畔管理の省力化のための取組

(1) グランドカバープランツ施工計画

施工場所：

施工対象面積（畦畔実面積）： ha

本田（＝水張）面積： ha

年数	内容	面積 (ha)	金額 (円)	実施年度
1年目				
2年目				
3年目				

注1) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

(2) 畦畔管理用機械導入計画

(機械利用対象畦畔面積 ha、本田（＝水張）面積 ha)

機械施設名	規格能力	台数等	金額 (円)	導入予定年月

(3) 畦畔管理用作業の状況

内容	現状 (年度)	事業実施後 (年度)
取組対象(予定)面積 (ha)		
取組対象面積当たり年間 作業時間		

- 注1) 取組対象圃場について記載すること。
2) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

【規模拡大・発展型支援は記入必須】

7 集積(経営、機械の共同利用及び作業受託)の目標

【項目】		【現状】	【目標】令和9年度
農地 の 集積	集積面積 A	24.64ha	25.84ha
	対象水田面積 B	27.50ha	27.50ha
	集積率 A/B	89.6%	94.0%
	地区外集積面積 C	0ha	0ha
	経営面積 A+C	24.64ha	25.84ha
経営の多角化への取組			

注1) 経営の多角化への取組は、該当する場合のみ記載すること。

8 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による 導入機械に○
コンバイン4条刈り	72ps	1台	10,500,000円	令和6年9月	○

9 添付資料

- 人材確保型支援は研修計画一覧(参考様式)、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料(総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等)を添付すること。
- 規模拡大・発展型支援は集積状況一覧(別表1、2)、機械の利用計画(別紙)、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料(総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等)を添付すること。

注1) 目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。

2) 経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧(別表1、2)により作成すること。